タイムベースドメディア・プロジェクト2019年度活動報告書

担当：三輪 眞弘（代表）、前田 真二郎
履修学生：長野 櫻子、木村 佳、森田 理紗子、津曲 洸太、林 暢彦

研究概要

蓄音機や写真、映画の発明以来、人類は「装置を用いた表現」の可能性を様々な形で拡げ、「いま、ここに」存在しない出来事を（擬似）体験することが日常のこととなった。特に映像や音響を含むあらゆる「表現」がデジタル化され、それらを次々と統合していくネットワーク上の「新しい時空間」の出現はまさに私たちにとって「第二の現実」としての存在感を獲得している。

このような状況の中で、かつて「芸術」と呼ばれていたものは、私たちにとっていま、どのような意味を持つものなのか？このプロジェクトでは特に時間–内芸術、すなわち時間的経過の中で行われる様々な「表現」に注目し、「装置を用いた表現」と伝統的な芸能の習得／実践双方を通して、この問題に取り組む。それは「機械」と私たちの身体との関係をめぐる探求であり、さらにメディアと人間存在との関係性を問うことでもある。

今年度の研究活動

毎週行われるミーティングを中心に、通年の活動と学内外の発表など期間の限られた計画の両方を通して研究を行った。また、学生の作品制作などもこのプロジェクトの実践として積極的に位置づけた。3年計画の2年目は具体的に下記の課題や発表を通してプロジェクトを進めた。

中でも、ガムラン音楽サークルの運営は初年度に続き、単なる研究のみならずその基礎から習得することを目標とした。一方、インターネット上での作品発表はネットワーク上の「新しい時空間」における表現の可能性として、ネットストリーミングによる定期的な「放送／発表」を試み、参加学生の作品を発表した。また今年度は教員、学生、卒業生、外部ゲストによる映像と音楽のアンサンブルによる舞台作品を共同制作した。学外発表についても様々な機会に恵まれ、それぞれ異なる条件のもとでこのプロジェクトの活動が紹介された。

- 映像と音楽のアンサンブルによる舞台作品の制作（通年）
- ガムラン音楽研究、実習、調査（通年）
- インターネットでの発表を前提とした作品制作（通年）
- ICSAF 2019/JSSA先端芸術音楽創作学会研究会 学生発表(11月)
- プロジェクト研究発表会（2月）
- 日本映像学会中部支部 学生発表（3月）

IAMASガムラン楽団演奏（岐阜おおがきビエンナーレ）

インターカレッジソニックアーツ・フェスティバル

2019年度の活動

ガムラン楽団の運営、ストリーミング作品の制作・発表、インターカレッジソニックアーツ・フェスティバル参加校としての発表をはじめ、プロジェクトはほぼ予定通りに行われたほか、今年度は特に、映像と音楽のアンサンブルによる舞台作品、”『日々《変容の対象》8月』 by 日々《変容の対象》”が、教員、学生、卒業生、外部ゲストの共同制作によって生まれた。

◎ 成果発表

1. サウンドパフォーマンス・プラットフォーム2020
『日々《変容の対象》8月』 by 日々《変容の対象》アンサンブル
日時：2020年2月23日
会場：愛知県芸術劇場 小ホール

プロジェクトで取り組んだ共同制作の一つ『日々《変容の対象》8月』は、2009年から2019年の8月に撮影された前田真二郎の映像作品『日々“hibi”AUG』の11作と福島諭と濱地潤一が共同作曲した『変容の対象』の11曲を合わせる試みである。このピアノとサクソフォンとリアルタイム映像送出のアンサンブルによる上演作品は、2019年7月のIAMAS OPENHOUSEでの試演を経て、幅6mの大型スクリーンと10000ルーメンクラスのプロジェクター、フルコンサートグランドピアノの使用といった理想的な舞台公演の機会を得て、当初から目標としていた映像と音楽がどちらにも従属しない関係での「映像音楽作品」としての上演を実現した。

サウンドパフォーマンス・プラットフォーム2020
愛知芸術劇場小ホール (2020.2.23)

『日々《変容の対象》8月』愛知芸術劇場小ホール
プロジェクトメンバーの木村(M2)と森田(M2)が演奏

2. IAMAS 2020 プロジェクト研究発表会
日時：2020年2月21～24日
会場：ソフトピアジャパン・センタービル　ソピアホール
https://www.iamas.ac.jp/exhibit20/

タイムベースドメディア2020展：
・Generative Streaming Works

あらかじめパッケージ化された映像や音響の再生ではなく、生成され続けるそれらをネットワーク配信する形式をジェネラティブ・ストリーミング作品と名付け、プロジェクトで取り組んだ。林暢彦（M1）と、長野桜子（M2）による２作品を展示した。

Generative Streaming Works 1. 林暢彦
『Ecomimesis for Generative Streaming』

仲間とのコミュニケーションに音声を使用する生物にとって重要なことは、自分が発した音とそれ以外の音を区別できること、そして自分の仲間の声と他種の生物の声を聴き分けられることである。
バーニー・クラウスBernard L. Crauseは、多くの生物が声を発する豊かな生態系では、声の周波数や発声する時間はある種の資源であり、生物種ごとの棲み分けがなされていると主張している（「音のニッチ仮説」）。
他種の声との弁別的差異は、ただそれがあるというだけで生存への優位性という価値を持っている。生態系は差異を産出する。そして差異の競争は共存の模索でもある。
異種間の相互作用が生み出す音風景には、白亜紀であれ、今から2億年後の世界であれ、地球以外の惑星であれ、生命の繁茂した環境ならではの普遍的な構造があるかもしれない。
ECOMIMESIS for Generative Streamingの音響生成アルゴリズムは、クラウスの言うような生態系の聴覚的棲み分けを原理的に模倣している。すなわち複数の遺伝子グループ（種）が各々の遺伝子情報の固有性を競いあう遺伝的アルゴリズムである。それぞれの個体の遺伝子情報は音高や音価など、特徴的な「声」の合成に必要なパラメーターに変換される。進化計算は1時間あたり1世代の速度で、ストリーミング配信中にリアルタイムになされる。鑑賞者は何度もウェブサイトに訪れることで、仮想の生態系の音風景の進化を観察することができる。

Generative Streaming Works 2. 長野櫻子
『わたしはここにいるだからそのことばがかきつづられるなぜならあなたがみているからだ』

作者が書くひらがなの筆跡をアニメーションで描き起こし、それらをコンピュータによってランダム再生させた、ジェネラティブ・ストリーミング作品。書き綴られる文字の中から、鑑賞者は「言葉」を見つけるかもしれない。本作は、「言葉」からその人だけの「記憶」を思い出してもらうための宛先のない手紙であり、永遠に続く詩である。

・記録映像ダイジェスト『日々《変容の対象》8月』
2009年から2018年の8月に撮影された前田真二郎の映像作品『日々”hibi”AUG』の10作と、福島諭と濱地潤一が共同作曲した『変容の対象』の10曲を合わせる試み。室内楽と映像送出のアンサンブルによる記録映像のダイジェストを展示する。ピアノ：山内敦子、サクソフォン：木村佳（M2）、映像送出：森田了（M2）

・記録映像ダイジェスト『IAMASガムラン楽団』
通年、サークル活動として「IAMASガムラン楽団」を主催し、実践的にインドネシアのジャワ・ガムランの理解を深めた。毎週、古典曲の演奏を練習し、今年度は学内のみならず学外での公演も実現した。養老アートピクニック「ガムラン・ノンストップ」での演奏記録を展示した。

イベント：
・タイムベースドメディア・ガムランコンサート（2020.02.24）
プロジェクトが主催するガムランコンサートをソフトピアジャパン・センタービル1F ふれあい広場で開催した。ジャワガムラン・アンサンブル「マルガサリ」をゲストに、プロジェクトが運営するIAMASガムラン楽団も参加。古典楽曲、三輪眞弘作品を演奏。

[プログラム]
1. スマル・マントゥ（IAMAS楽団参加、６分、古典曲）
2. トゥルラレ（14分、古典曲）
3. イアマス校歌（15分、三輪眞弘作曲）
4. ジヌマン（５分、古典曲）
5. ガンビョン・パンクル（12分、古典舞踊曲）

IAMAS 2020 プロジェクト研究発表会
タイムベースドメディア2020展

タイムベースドメディア・ガムランコンサート
ソフトピアジャパン・センタービル1F ふれあい広場

◎ 学会関連の発表

第40回JSSA先端芸術音楽創作学会研究会／インターカレッジ・ソニックアーツフェスティバル２０１９
日時：2019年11月30日
会場：尚美学園大学川越キャンパス N棟1F N110
　セッション１で、木村佳(M2)が 『演奏とメディアをめぐる問い』、森田理紗子(M2)が 『ガムランにおける独自概念「ラサ」に触発された作品制作の試みとその手法の可能性』を発表

ICSAF 2019 concert 1
日時：2019年 11月30日
会場：尚美学園大学川越キャンパス パストラルホール
　森田理紗子(M2)が 『Sar/on rails』（ライブパフォーマンス）、木村佳(M2)が 『Video Remix by Myself』（ライブパフォーマンス）を発表

ICSAF 2019 インスタレーション作品展示
日時：2019年 11月30日
会場：尚美学園大学川越キャンパス N棟1F
　林暢彦(M1)が『タイトル未定』を展示

『Sar/on rails』森田理紗子
ICSAF 2019 concert 1(2019.11.30)

◎ 事業連携

養老アートピクニック「ガムラン・ノンストップ」
日時：2019年11月2、3日
会場：養老公園・芝生広場　特設ステージ
　岐阜県が主催するイベントにガムラングループ「マルガサリ 」とIAMASガムラン楽団が参加した。

養老アートピクニック(2019.11.2,3)
「ガムラン・ノンストップ」

◎ IAMASガムラン楽団運営

　IAMASガムラン楽団（仮名）はタイムベースドメディア・プロジェクトにおける「伝統的な芸能の習得／実践」を目的に、プロジェクト活動の一環として結成された。そのために中川真教授が代表を務める一般社団法人「スペース天」が保有するガムラン楽器一式を年度を通して借り、スキル向上のために原則月２回、合計14回のレクチャー（及びレッスン）を受け、成果を可視化（可聴化）するために今年度も演奏を披露する機会を得た。（以下、中川真先生報告書より）

実施内容

1. レクチャーコンサート
2. レクチャー　全２０回

1. レクチャーコンサート（令和２年2月２４日）
「タイムベースドメディア　ガムランコンサート」
会場：センタービル１階エントランス
時間：１２：３０～１３：３０
演奏者:IAMAS楽団、マルガサリ（黒川岳、大井卓也、恵美須屋直樹、冨岡三智、西真奈美、中川真、エリアス・カニタ、西村彰洋、森山みどり）
来場者：IAMAS教職員及び修了研究発表会来場者

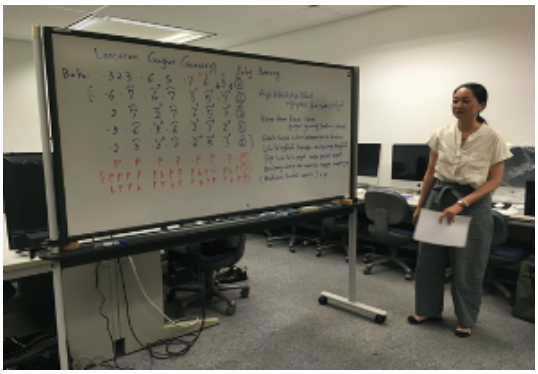
プログラム：スマルマントゥ、トゥルラレ、イアマス校歌（三輪眞弘作曲）,ウルルカンバン、パン クル（ジャワ舞踊つき）

2. レクチャー
日程：月2回、隔週１回１９：００～２１：００（2時間程度）
全２０回（５月、６月、7月、9月、１０月、１１月、１２月、1月、2月）
講師：岡戸香里ほか
場所：センタービル４階　コンピューター室（C403）

スケジュール：
①5/２２中川、②6/5、③6/１9、④7/3中川、 ⑤7/２４中川、⑥9/１８中川、⑦１０/１６中川、⑧１０/３０、⑨１１/3、⑩１１/4、⑪１１/２７、⑫１２/4、⑬１２/8、⑭１２/１８、⑮1/１５中川、 ⑯1/２９、⑰2/１２、⑱2/１９、⑲2/２３中川、⑳2/２４中川
内容：
第1回　ガムランについて、楽器の説明、ランチャラン「ググルグヌン」
第2回～９回　楽曲練習（初級）：ラドラン「ウィルジュン」を追加
第１０回～２０回 楽曲練習（中級）：ラドラン「スマルマントゥ」を追加

２０回のレクチャーを実施。延べ１８０人以上が参加。前年度から参加しているメンバーをコアに、ガムラン未経験者が加わり、楽団を維持し、その成果を「IAMASオープンハウス」「養老アートピクニック」「岐阜おおがきビエンナーレ」「IAMAS2020」において発表した。

レクチャー（練習）風景　5/22



講師（岡戸）による説明 6/19

事業成果

本事業は「装置を用いた時間芸術表現」を研究テーマとするタイムベースドメディア・プロジェクトにおける「伝統的な芸能の習得／実践」に資することを目的として実施された。音楽は時間芸術であるが、本プロジェクトでは「アジア的な時間」に特化して研究と実践を深めるため、ガムラン楽器ならびにその楽曲の実習を設定し、「伝統的な芸能の習得／実践」に取り組んだ。そのために本社団法人が保有するガムラン楽器一式を貸与し、スキル向上のために20回のレクチャーと成果発表を実施した。特に、成果発表では昨年度に結成された「イアマス楽団」には４回のパフォーマンス機会を持ってもらった。使用したガムラン楽器はインドネシア、ジャワ島中部ソロ市郊外のサロヨ工房で製作されたもので最高級の品質をもち、本事業遂行には最適のセットである。

レクチャーは楽曲の理論的側面を学びながらも実践的スキルの向上に主眼を置いたもので、第１回（5/２２）では、本法人の代表理事で大阪市立大学特任教授である中川眞が、ガムランの音楽形式、ジャワにおける社会的背景、世界のガムランの中の日本の位置づけなどについて講演を行ったのち、楽器演奏に取り組んだ。また、全般的な講師として、昨年度に引き続きソロ市の国立インドネシア芸術大学に留学し音楽、舞踊を習得した岡戸香里氏を招いた。昨年度と同様、本法人との綿密な打ち合わせの上で、ジャワの方式に則って、最もシンプルなランチャラン形式の習得から開始した。使用した楽曲はググルグヌンである。ペロッグ音階の比較的演奏容易な楽曲であるが、旋律の変化に富み、インドネシアのスタンダードナンバーと言って良い曲である。経験者、初心者にとってもよき入門曲である。このプロジェクトの前半はググルグヌンの習得だけであったが、それはガムランが多くの楽器の習得を前提とすること、１曲の中にテンポの大きな変化があり、その変化によってテクスチュアが異なることなど、複雑な作業が含まれているため、この１曲に集中することとした。後半には、ラドラン形式のウィルジュン、スマルマントゥの習得を行い、それぞれ成果をコンサートにおいて発表した。

成果発表は「オープンハウス」「養老アートピクニック」「岐阜おおがきビエンナーレ」「IAMAS2020」という４回の機会が持てた。「IAMASオープンハウス」「大垣ビエンナーレ」はイアマス楽団の単独演奏、「養老アートピクニック」「IAMAS2020」はマルガサリの単独演奏と、両楽団の合同演

奏を行った。「IAMAS2020」が本プロジェクトにおける「コンサート」の位置づけであった。マルガサリを招聘したのは、本事業のさらなる展開を見据えて、ガムラン音楽のレパートリーの多様性をプロジェクト参加者に覚知していただくことと、一般公開とすることによって、本プロジェクトの学内外への周知という二つの目的を果たすためであり、それは想定通りに果たされたと判断できる。また、コンサートに解いて三輪眞弘学長の「IAMAS校歌」の上演ができたのも大きな成果であった。

[講師]

1 一般社団法人スペース天　代表理事　中川 眞

アジアの民族音楽、サウンドスケープ、アーツマネジメントを研究する。著書『平安京　音の宇宙』でサントリー学芸賞、京都音楽賞、小泉文夫音楽賞、現代音楽の活動で京都府文化賞、アーツマネジメントの成果で日本都市計画家協会賞特別賞（共同）を受賞。他に『サウンドアートのトポス』、『アートの力』、小説『サワサワ』などの著作がある。ガムランを軸とした国内外での活動に対してインドネシア政府外務省文化交流表彰を受ける（2006,2017）。大阪市立大学特任教授、インドネシア芸術大学、チュラロンコン大学（タイ）客員教授。アートミーツケア学会副会長。

2 レクチャー講師　岡戸 香里

米カリフォルニア芸術大学（Cal Arts）在学中にジャワとバリの舞踊とガムランに出会う。その後、中部ジャワ、スラカルタのインドネシア国立芸術大学へ留学し、本格的にジャワ舞踊とガムランを学ぶ。帰国後、大阪市立大学文学研究科アジア都市文化学専攻にて、ジャワ伝統芸術とその社会包摂的応用、災害と伝統芸術の研究などを行う。また、NPO法人職員としてジャワに駐在し、火山被災地を中心としたコミュニティ防災活動に従事した。現在は、博士論文を執筆しつつ、ジャワ舞踊、ガムラン演奏の公演、英語、インドネシア語通訳を行っている。

3 レクチャーコンサート演奏　「マルガサリ」

1998年に創設されたジャワ・ガムランを軸とする合奏団で、古典から実験的な作品まで幅広いレパートリーをもつ。インドネシア芸術大学ジョグジャカルタ校と連携しながら、世界のガムラン地図のなかでの位置を常に意識し、「共同／協働（コラボレーション）」をキーワードとした活動を中心的に展開してきた。三輪眞弘との逆シミュレーション音楽『愛の讃歌』（2007～）、野村誠との楽舞劇『桃太郎』（2001～）、のほか、マクドナルド・ヴィンセント（米）、デヴィッド・コットロイ（オーストラリア）、ヨハネス・スボウォ（インドネシア）、マイケル・アスモロ（同）らが、マルガサリのために新作を提供している。代表は大井卓也、音楽顧問はシスワディ。

以上